中学歴史プリント（過去問類似）
江戸時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 江戸時代の大阪は「天下の台所」と呼ばれましたが、その理由を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2019年　愛知公立入試　類似）

1. 全国の諸藩が年貢米や特産物を売り出すための蔵屋敷を置き、物資の流通拠点となったため。

2. 将軍の膝元として政治の中心地となり、武士が必要とする生活用品がすべて生産されたため。

3. 日本海側から江戸へ直接物資を運ぶ東まわり航路の終着点として、巨大な市場が形成されたため。

4. 外国との貿易が唯一認められた港を持ち、海外の珍しい産物が全国へと送り出されたため。

問2 19世紀初頭、江戸幕府の命により日本全国の海岸線を実際に歩いて測量し、方位や距離を細かく記録することで、きわめて精度の高い実測地図を完成させた人物は誰ですか。（2018年　東京都公立入試　類似）

1. 伊能忠敬　**2.** 間宮林蔵　**3.** 杉田玄白　**4.** 最上徳内

問3 江戸時代、伊勢出身の商人が江戸に開店し、それまでの商習慣とは異なる画期的な販売方法によって大きな成功を収めた呉服店とその一族の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2018年　愛知公立入試　類似）

1. 三井家と越後屋　**2.** 平清盛と三井屋　**3.** 織田信長と越後屋　**4.** 足利義政と越後屋

問4 江戸時代の政治改革において、老中の田沼意次が行った政策とその辞任に至る背景について述べた文として、正しいものはどれですか。（2017年　群馬県公立入試　類似）

1. 株仲間を積極的に公認して運上・冥加という税を徴収したが、浅間山の天明の噴火による飢饉や将軍の死去によって失脚した。

2. 株仲間の解散を命じて物価の下落を狙ったが、天保の飢饉による社会混乱の責任を問われて罷免された。

3. 参勤交代の制度を整えて大名の統制を強めたが、キリスト教の弾圧を巡る不備を理由に職を退いた。

4. 公事方御定書を制定して裁判の基準を設けたが、長崎貿易の不振による財政赤字の責任をとって辞任した。

問5 薩摩藩が奄美大島などで行った砂糖の専売制について、当時の生産現場では武士が作業を厳しく監視する体制がとられていました。このような厳しい管理が行われた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2026年　滋賀公立入試　類似）

1. 生産者に自由な取引をさせず、藩が安値で独占的に買い上げる仕組みを維持するため

2. 砂糖の製法が他藩へ流出するのを防ぎ、特産品としての価値を守るため

3. 過酷な労働環境にある島民の安全を確保し、生産意欲を向上させるため

4. 海外への輸出を拡大するために、砂糖の品質を全国統一の基準に保つため

問6 江戸時代、農村において菜種などの商品作物の栽培が広がり、農民が貨幣を用いて肥料や日用品を購入するようになった理由として、最も適切な背景はどれですか。（2022年　福岡県公立入試　類似）

1. 都市の発展により、灯火用の油や衣料の原料となる作物の需要が高まり、市場での売買が活発になったため。

2. 幕府が年貢をすべて貨幣で納めるよう命じたため、食料自給を止めて換金性の高い作物の栽培に専念したため。

3. 鎖国によって海外からの肥料輸入が途絶えたため、農民が自ら商品を作って国内市場を独占しようとしたため。

4. 大名が参勤交代の費用を捻出するために、領内の農民にすべての土地で菜種のみを栽培するよう強制したため。

問7 江戸時代の農業の発展に関する説明として、技術の進歩と生産基盤の拡大の両面から述べたものとして最も適切なものを選びなさい。（2022年　鳥取公立入試　類似）

1. 幕府や諸藩による新田開発で耕地が広がり、千歯こきの普及で脱穀の効率も向上した。

2. 斑田収授法によって農民に土地が分配され、大規模なコメの生産が始まった。

3. 小作争議の解決のために地主が農具を無償提供し、農業の機械化が急速に進んだ。

4. 綿糸の輸出による外貨獲得を目的として、全国の田が綿花畑へと転換された。

問8 江戸時代、灯火用の燃料として欠かせなかった菜種油の流通について述べた文として、当時の社会経済の仕組みを正しく説明しているものはどれですか。なお、当時の統計資料によれば、大阪には各地から原料となる菜種が集まり、加工された油が各地へ送り出される一方で、江戸で消費される菜種油の約8割が大阪を経由して運び込まれていました。（2019年　三重公立入試　類似）

1. 各地で生産された菜種の種子を大阪に集めて油に加工し、最大の消費地である江戸へ供給した。

2. 江戸周辺の農村で栽培された菜種をすべて大阪へ送り、大阪の特権商人が独占的に西日本へ販売した。

3. 幕府が直接菜種の栽培を管理し、江戸で加工した油を「天下の台所」である大阪へ輸出して利益を得た。

4. 鎖国体制の影響で海外から輸入された菜種を、長崎から大阪へ運び、全国の農村へ燃料として配分した。

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **全国の諸藩が年貢米や特産物を売り出すための蔵屋敷を置き、物資の流通拠点となったため。**	大名は領内の年貢米や特産物を貨幣に換えるため、大阪に蔵屋敷という倉庫兼取引所を設けました。西まわり航路などを通じて全国から莫大な量の物資が集まったことから、大阪は日本の食糧や経済を支える「天下の台所」と称されました。
問2	**答え 1** **伊能忠敬**	江戸時代後期、外国船の来航という対外的な緊張が高まる中で、幕府は国防上の観点から正確な日本地図を必要としました。これを受け、50代半ばから約17年をかけて全国を測量し、没後に『大日本沿海輿地全図』としてまとめられた実測地図は、当時のヨーロッパの地図と比べても遜色ないほどの高い精度を誇りました。
問3	**答え 1** **三井家と越後屋**	江戸時代に伊勢（現在の三重県）松阪出身の三井家が江戸に進出し、越後屋という呉服店を開店しました。当時としては極めて珍しい「現銀掛値なし（現金掛け値なし）」という商法を導入したことで、江戸の町人たちから絶大な支持を集め、後の三井財閥の基礎を築きました。
問4	**答え 1** **株仲間を積極的に公認して運上・冥加という税を徴収したが、浅間山の天明の噴火による飢饉や将軍の死去によって失脚した。**	田沼意次は、それまでの農業重視の財政再建から転換し、株仲間の公認や長崎貿易の拡大など、商業の力を利用して幕府の収入を増やそうとしました。しかし、天明の飢饉などの自然災害が相次いだことや、後ろ盾であった10代将軍徳川家治が亡くなったことで、松平定信ら反対勢力によって失脚へと追い込まれました。他の選択肢にある株仲間の解散は、後の天保の改革（水野忠邦）によるものです。
問5	**答え 1** **生産者に自由な取引をさせず、藩が安値で独占的に買い上げる仕組みを維持するため**	薩摩藩の砂糖専売制は、藩の利益を最大化することを目的としていました。そのため、生産者である島民が砂糖を密売したり、自家消費したりすることを厳しく禁じる必要がありました。武士による監視のもとで、生産された全ての砂糖を藩が不当な安値で買い上げる強制的な仕組みを維持したことが、幕末の薩摩藩の強力な軍事力を支える資金源となりました。
問6	**答え 1** **都市の発展により、灯火用の油や衣料の原料となる作物の需要が高まり、市場での売買が活発になったため。**	三都（江戸・大坂・京都）をはじめとする都市の人口が増加したことで、灯火用の油の原料となる菜種や、衣料の原料となる綿、染料となる藍などの需要が急増しました。農民はこれらの需要に応えるために「商品作物」を生産し、その利益でより生産性を高めるための肥料（金肥）や生活必需品を「購入」するようになりました。これが自給自足から商業的な農業へと変化した最大の背景です。
問7	**答え 1** **幕府や諸藩による新田開発で耕地が広がり、千歯こきの普及で脱穀の効率も向上した。**	江戸時代中期には、干拓や用水路の建設による「新田開発」が積極的に行われ、耕地面積そのものが拡大しました。これと並行して、千歯こきのような優れた農具の普及や、干鰯などの商品肥料（金肥）の使用といった農業技術の向上が合わさることで、コメの生産量は飛躍的に増大しました。斑田収授法は古代の制度、綿糸の輸出は明治時代以降、小作争議の激化は大正時代以降の出来事です。
問8	**答え 1** **各地で生産された菜種の種子を大阪に集めて油に加工し、最大の消費地である江戸へ供給した。**	江戸時代の大阪は「天下の台所」として、諸国から集まった農産物を加工・製品化する機能を持っていました。菜種油の場合、周辺の摂津・河内をはじめとする西日本各地から原料（菜種の種子）が大阪に集まり、絞り油へと加工されました。この加工された油は、膨大な人口を抱え灯火用燃料の需要が非常に高かった江戸へ、菱垣廻船などの海運を利用して大量に供給されるという広域的な流通ネットワークが形成されていました。